け用筵で車の前部（または周囲）に用いたもの」ということになる。

『田氏家集』「116　和野秀才見寄秋日感懐詩」に「襦袴毎思寒北報、簰篁空送景西垂」の句が見える。桑原朝子氏は著の中で、〔車の塵除けである簰篁を「叩舷」に換えるということは、都で牛車に乗る生活をしていた官人が筑紫に赴任して来て舟に乗る生活をするようになることを表していると捉えるべきであろう〕と述べる。（三〇九頁）→ 補説①

○舷　…刊本及び、一部の写本では「舷」を「船」（＝船の俗字）とする。

○叩舷…歌の調子をとるために船ばたを叩く。『文選』に収録されている郭景純の「江賦」中に「忽忘夕而宵帰。詠採菱、以叩舷」の句が見える。

『漢語大詞典』では「謂以槳擊船舷以為歌詠的節拍」と説明する。

この句も京の文化風俗が、この鄙の地太宰府には全く及んでいないことを誇張している表現箇所と見ることが出来る。本来の用途からかけ離れた使われ方をしているのを文学的表現で誇張していると解すべきところと考える。→ 補説①

77○貪婪…きわめて欲が深い。『楚辞』「離騒」に「衆皆競進而貪婪兮。〔注〕愛財曰貪、愛貪曰婪。」の用例がある。

○興販…川口久雄氏は岩波文学大系本の頭注で「興販」は「商売をすること。物を安く買って高く売ること」と説明する。「興」は「（事業を）始める」の意。

『令義解』巻十の「關市令」第二十七に「18　凡在市興販。男女別坐」の用例がある。

○販米…米を販売する。

78○行濫…商品が堅牢でなく、またはにせものであること。